



堀岡 敏喜 議員

被災地のがれきを受け入れる 判断は、市民の安全を優先に

問

防災等について聞く。

- (1) 水害を伴う場合、避難者は必ず濡れ状態が予想される。避難所の防寒対策は十分か。
- (2) 避難所運営を円滑に行えるよう、マニュアル化しているか。
- (3) 備蓄品等の情報は明確になっているか。
- (4) 避難所運営ゲーム「HUGO」は、自主防災会等で行えば、コミュニケーション強化、防災意識啓発になるが、検証してはどうか。
- (5) 静岡県が開発したボードゲームで、避難者の部屋割り、炊き出しやトイレ設置などを1グループ6人が話し合い、平面図やカードで擬似運営する。
- (6) 広域災害は、近隣市町村との連携が必要となるが、どんな認識か。
- (7) 県は被災地域からがれ



◀災害用の備蓄品
【中山町地内の防災倉庫】

きを受け入れるとしており、市の施設も該当している。しかし、汚染数値が出た場合、疑いのあるものは市民の安全を優先し、断じて受け入れるべきではないと考えるが、市の見解を聞く。

(6) 市として独自に、保育所、小中学校グラウンド、通学路、公園等の放射線量

計測が必要ではないか。

(7) 学校給食や食品の安全性について、どう取り組んでいるのか。

有害物質は受け入れない

答 防災安全課長

- (1) 1万2千枚ほどの毛布の備蓄を行っている。防寒、熱中症対策等は、24年度に向けた検討課題として行っていく。
- (2) 現在は県のマニュアルを準用している。細部は今後、避難所ごとにどうやっていくのかを考えていきたい。

備蓄品は避難所スペースの問題から、市の備蓄品を災害時に搬入する形で行いたい。

(3) こういった訓練も取り入れながら、今後、避難所運営を考えていきたい。

(4) 現在、海部地域で消防協定、(県全体で)廃棄物処理協定がある。

8月に、県全体の災害応援協定が議論された。機会を捉え、県を越えた応援協定も国に依頼していく。

答 環境課長

- (5) (ごみ処理を行っている)海部地区環境事務組合は、市と鍋田地区の了解を得た上で、可燃性廃棄物を受け入れるとしている。

県は、放射性廃棄物や有害物質は受け入れないと明言している。

答 教育部長

- (6) 8月下旬に市内保育所で測定し、1時間当たり0.042から0.083マイクロシーベルトだった。自然界から受ける範囲内で、問題はないと考えている。

今後、測定器を購入、必要に応じて測定し、安全を確認していきたい。

- (7) (財)県学校給食会が、独自に放射線量測定を実施している。

納入業者等関係団体との連絡を密にし、産地確認や国の情報に留意し、安全確保に努めていきたい。